

『ちからいっぱい やさしさいっぱい』

藤枝市立大洲小学校

1 ピア・サポート活動年間プログラム

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	1年生を迎える会 遠足	【出発のステージ】 ～新しい仲間と仲良くしよう～	年度初め職員会議
5月	運動会 児童集会 わくドキ活動	各学級やわくドキ活動で温 かな人間関係作りの活動	打ち合わせ等でのピアサポート活動についての呼びかけ
6月	わくドキ活動 児童集会	・なかよくなるうビンゴ ・ほどけるかな ・みんなでゲーム 等	
7月	わくドキ活動	【挑戦のステージ】 ～自分の力を伸ばそう	夏季研修
8月		正しいと思ったことはやってみよう～ 個々の力をつけ、集団の力 を高める活動	
9月	わくドキ活動 陸上選手を励ます会	・にっこりことばにへんしん ・元気の出る聴き方 ・やさしい頼み方 ・どんなきもち 等	学年研修
10月	わくドキ活動 クラブ 親善音楽会出場者を励ます会	【協力のステージ】 ～だれとも仲良くしよう 友だちのがんばりを認めよう～	
11月	わくドキ活動 校内音楽会（音楽委員会） クラブ 児童集会	友だちのよさ、集団のよさ を認め合う活動	
12月	学校保健委員会（保健委員会） 体育集会	・上手になかまになろう ・できるだけたくさん考えよう ・どっちが長い？ 等	
1月	わくドキ活動 児童集会	【ありがとうのステージ】 ～人のために行動しよう 感謝の気持ちを伝えよう～	
2月	わくドキ活動 ありがとうを伝える会	友だちの成長を認め、感謝す る気持ちを育てる活動	
3月	ありがとうの会		

・「温かな聴き方・話し方」  
・クラブ活動（四～六年）  
・幼稚園との交流（二年）  
・特別支援学校との交流（四年）  
・本校特別支援学級児童との交流



## 2 本校のピア・サポート活動の紹介

本校では三指導部の各領域でピア・サポートの目標を掲げ、各々に取り組んできた。

＜提言1・2・3＞

- ・生徒指導部：思いやりの心を育てる～かわりあう力を育て楽しい学校をつくる～
  - ・学習指導部：思いを伝えあう授業～子どもたちが表現したくなる授業づくり～
  - ・特別活動部：子どもの主体的な活動～子どもから子どもへと発信する特別活動～
- 三指導部の取り組みから主な実践を紹介する。

### (1)【わくドキペア活動】＜提言4＞

本校では、1・6年、2・5年、3・4年のペア同士で、月1回昼休みに遊ぶ時間を設けている。一昨年度までは、1～6年の縦割りグループ活動だったが、ペア活動2年目となり、ペアがより近い存在になっている。上級生が下級生に楽しんでもらおうと、遊びの内容を考えたり積極的に関わったりすることで、互いの信頼関係が深まる姿が見られている。



読書旬間ではペア読書として読み聞かせをしたり一緒に本を楽しんだりする姿が見られた。

また、ペア同士や設定された時間だけでなく、日常の生活の中でもけがをした下級生を上級生が保健室に連れてくる姿がよく見られ、優しい声かけもしている。

これらの活動を通して、上級生は下級生を思いやる心を、下級生は安心感を抱き、上級生を尊敬する気持ちが育まれている。

### (2)【児童集会・あいさつ運動】

＜提言4・6・7＞

本校では『ふわぽか』という言葉をととても大切にし、あたたかい行動や言葉かけに対して「ふわぽかだね。」とお互いを認め合っている。今年度も「ふわぽか」を合い言葉にしたピア・サポートの実践を児童会中心に行ってきた。

#### ① ふわぽかレインボー大作戦

6月の児童集会で児童会が「ふわぽかレインボー大作戦」を紹介し、活動が始まった。

ふわぽかな言動について、レベル1「一人のために」レベル2「クラスのために」レベル3「学校のために」レベル4「地域のために」と段階を設定した。そして、毎日下校時に昇降口で1日をふり返り、どのレベルのふわぽかな言動ができたかカードを入れていく。カードがたまると昇降口に大きく掲示された虹に色がついていくという、全校での取り組みである。

今回は学校だけでなく地域も意識したことで、ふわぽかな言動をすることに広がりが見られた。



#### ② ふわぽかメッセージ

各学年の廊下に児童会ポストがあり、そこに友達の花ぽかかな行動や声かけの投書ができるようになっていいる。投書されたものは、お昼の放送で児童会の子どもが読み上げ、「これは、レベル2ですね。」と価値付けをしている。放送でメッセージが紹介されることで、ふわぽかな行動をする意欲につながっている。



### ③ あいぽかチャレンジ大作戦!

11月の児童集会で児童会が「あいぽかチャレンジ大作戦!」を紹介し、活動が始まった。ふわぽかなあいさつをしていこうという取り組みである。

一人につき一枚名前を書いたハートのカードを用意し、朝、登校したら何人にあいさつができたか昇降口や廊下にある大きなボードにカードを貼っていく。①のふわぽかレインボー大作戦と平行して行われた。



また、生活委員会もあいさつボランティアを募り、あいさつ運動を推進した。

学校全体での取り組みにより、相手の目を見て大きな声であいさつをする姿が広がった。

### (3) 【ちからいっぱい やさしさいっぱい】

<提言5>

主に帰りの会の時間で『ちからいっぱい やさしさいっぱい』というふり返りの時間を設け、友達の良さを認め合っている。教室という空間の中で多くの時間を共に過ごす子どもたちは、友達の行動を実によく観察している。友達に自分の良いところを認められ、具体的に言葉で伝えられた経験は、思いやりの心を育む。日々の積み重ねが、さらにピア・サポートの輪を広げていくことになるだろう。

### (4) 【小中連携合同研修会】 <提言3>

今年度は年間3回の合同研修会を行った。

互いの授業を参観・協議する活動を通して、子どもたちの実態や発達段階に対する共通理解を図った。

また、夏の合同研修会では三指導部に分かれて部会を持ち、「15歳で身につけたい力」を考え、それに向けての各発達段階で「身につけたい力」を体系化した。

そして、さらに各担当ごとの分科会を行い、9年間を見通した具体的な取り組みを話し合った。

ピア・サポートの視点においても少しずつ体系的な活動を進めている。

### 3 本年度の成果と課題

○本年度の成果

「わくドキペア活動」では、縦割りからペア活動になって2年が経ち、ペアがより近い存在になった。上級生が下級生を思いやり、楽しく交流する姿が多く見られた。

児童会を中心とした創意工夫のある取り組みは、学校全体を盛り上げた。あいさつやふわぽかな活動を視覚化したり、価値づけしたりすることで、自然に子どもの意欲が次につながっていた。

また、各学年やクラスでもピア・サポートの取り組みが行われた。3年生では、みんなが気持ちよく使えるトイレにするために、掃除の仕方を考えたりスリッパの整頓を意識したりする活動が行われた。

○本年度の課題

ペア活動では、関わり方がわからない子どもたちもいるため、どのような活動を行えばよいかを学級で話し合う時間が必要だった。

児童会や生活委員会を中心としたあいさつ運動は盛り上がりを見せたが、あいさつが当たり前前にできる姿を目指して、継続した取り組みや指導が必要である。

子どもの自己肯定感を高めるために、友達に認められた自分の良さをふり返ったり、自分の言動の価値づけを行ったりすることで、ピア・サポート活動がより機能するのではないだろうか。

### 4 来年度に向けて

子どもの自己肯定感の向上やピア・サポート活動の活性化のためには、やはり学級づくりが基盤になると考える。学級づくりのための具体的な手立てを計画し、学校全体の共通意識を進めることができるよう、周知理解を図りたい。また、学校だけでなく地域や家庭でもピア・サポートの考え方や活動が広まるよう発信していきたい。